

2019年9月21日土曜日、川西町交流館あいばる（旧川西二中）の一室で、ライターで編集者の南陀楼綾繁さんを迎えトークイベントが行われた。聞き手は5年間BBO事務局を務めた元プラザ職員の荒澤久美さん。

前半は、置賜地域から発信されてきた同人誌やミニコミ誌などを中心にした話を進んでいく。遅筆堂文庫の郷土資料に保管されている『居路里』『童人』『先知らぬこの道を』『ほんきこ』など…。

会場には実際にそれらの雑誌づくりをしていたフレンドリープラザの栗田館長や遠藤学芸員なども参加しており、南陀楼さんから絶妙なパスが投げられる。20〜30代の頃に書いていた文章に照れながらも、当時の熱い思いが語られていた。そしてそれらに影響を受け「ほんきこ」というサークルを立ち上げ、『ほんきこ』を発行してきた荒澤さん。年代は違えど自分達の想いを言葉で紡いできた人たちの話は熱く、それぞれの点が線でつながったような感動を覚えた。

後半は、あいばる二階にある遅筆堂文庫分室へ。案内役はNPO法人遅筆堂文庫プロジェクトの阿部代表。

ここには、井上ひさしが集めた雑誌を中心に保管されており、図書室の他、五つの元教室を雑誌の山が占領している状態だ。今現在まさに分類、整理中である。廊下にも雑誌別のダンボールが山積みになっている。こんなにとくさんの種類の雑誌が存在するのさと度肝を抜かれる多さだ。井上ひさしの知的関心の対象がいかに幅広くあったかを思い知らされる。

トークの中で、南陀楼さんは雑誌をつくる情熱と裏側にある大変さについて編集者側からの想いも語っていた。改めて見るこの雑誌の山は、たくさんの人の想いと情熱のもとに作られ、今ここにあるのだ。それを思うと、胸が熱くなった。

（レポート 仁科）



荒澤久美さん



南陀楼綾繁さん

**LIBRARY**

大人のための  
**夜の図書館**  
★冬期間は昼バージョンになります★

朗読  
**鬼平犯科帳**  
出演  
古川 孝  
舟山 京子

2020 1/25 (土) 時間▷14:00~15:00  
場所▷川西町フレンドリープラザギャラリー  
参加費▷無料(要事前予約) ※定員30名

コーディネーター及び出演者随時募集中!!  
あなたの「やってみよう!」を実現。

詩の朗読、おはなし会、読書会、ボードゲーム会など、楽しい時間を誰かと共有したい方、又は自分の得意な事を発表してみたい方、ぜひ「夜の図書館」で実現してみませんか?ご興味のある方、ぜひお気軽にお問合わせください。担当司書が日時などを調整いたします。

井上ひさし没後10年となる2020年。ゆかりある6館で、1年にわたり催される企画展を巡るスタンプラリーです。

《ゆかりある6館》

- ◆遅筆堂文庫
- ◆仙台文学館
- ◆吉野作造記念館
- ◆鎌倉文学館
- ◆市川市文学ミュージアム
- ◆世田谷文学館

スタンプ帳・スタンプシートは川西町立図書館カウンターにあります。ご希望の方はお気軽にスタッフまでお声がけください。



遅筆堂文庫  
没後10年企画展  
〜井上ひさし、ユートピアを求めて本の海を行く〜

2019年12月14日(土)〜2020年12月27日(日)

I期 4/7〜6/28 「旅はここから始まった『創作元年』」

初期の創作ノートやファイル、情報カード、手帳などを展示します。

II期 6/30〜9/27 「ふるさとは本の海」

主な著作資料から未公開のものを展示します。

III期 9/29〜12/27 「本の海は果てしなく広くて深い」

社会的な発言にも及んだ農業、環境、憲法問題などの発言を紹介いたします。

**PLANNING**

朗読倶楽部「星座」  
— 新たなステージへ —



2020年1月より朗読倶楽部「星座」が新たな公演へ向け始動します。2018年9月の発足以来3回の公演の他、県内の図書館祭りへの招待公演や町内の小学校での公演も実施。活動の幅を着実に広げてきました。『水の手紙』は「国民文化祭やまがた・2003」の総合プロデューサーを務めた井上ひさし氏が総合開会式のために書き下ろした群読のための台本です。多くの出演者が必要となるため現メンバー15名に加え、新たに参加者を加えて1月から稽古が始まります。「星座」の公演スタイルはリーディング公演です。リーディングとは、一人ひとりが台本を手にした状態で舞台上を動き、台詞(セリフ)をしゃべる表現形式です。観る人に驚きと新鮮さを与え、迫力と臨場感を表現することができます。

《次回公演のお知らせ》

2020年4月12日(日) 第6回 吉里吉里忌オープニングアクト  
6月7日(日) 群読公演『水の手紙』

どうぞ期待!



説明会風景▲

2020年の「一箱古本市 in 川西」は9月13日(日)開催です。

## 一箱の宇宙で遊ぶ

一箱古本市とは…

一人ダンボール一箱ほどの古本を販売するイベントです。全国から集まる店主たちが、個性的な一箱を持って大集合! 本と人との出会いをお楽しみください。

助っ人募集中!

本好きの方、本屋さんが好きな方、古本が好きな方、何かしてみたいと思っている方。



ヒトハコ読書部 部鳥



※このイベントは2005年、東京の谷中・根津・千駄木で行われている「不忍ブックストリート」で始まりました。現在、全国各地に広がっています。どの地域も、その土地特有の雰囲気を出しながら進化をつづけるブックイベントです。